

ビワのさし木および取り木の時期について

橋本基之・一瀬 至  
(長崎県果樹試験場)

HASHIMOTO, M. and ICHINOSE, I.  
On the Time of Cutting and Layering in Loquat

ビワの苗木の生産の安定と育苗期間の短縮のため、ミスト利用によるさし木、ならびに取り木を試みているが、その時期について検討したのは報告する。

試験方法

1. ミスト利用によるさし木時期

1973年1月から12月まで、毎月20日にさし木し、順次、5ヵ月後に掘上げ調査した。さし穂は17年生の茂木種から採り、1月から9月までは前年の夏枝、8月から12月まではその年の夏枝を用い、枝を先端部と基部に分けてさした。さし穂は1処理に30本を用いた。用土は通称いたざり(福江市産火山砂)の粒径2.5~3.5mmのものを用いた。なお、冬季は電熱線を使って地温を20℃に保った。

2. 取り木時期

1974年8月から'75年7月まで、毎月25日に処理を行い、順次、5ヵ月後に調査した。枝は18年生茂木種の'74年に発生した夏枝を用い、先端部から10~12cm下のところに幅3mm程度の環状はく皮をかけ、IBA1%粉剤処理区と無処理区を設け、十分に湿らした水ごけ約1.5ℓ

ではく皮部を包み、その上をビニールフィルム(30cm×30cm)で被覆し、乾かないようにした。1処理に10枝を用いた。

結果および考察

さし木時期 発根率は8, 9, 10, 1, 2月さしが高く、なかでも8月さしの発根率が高い、根の伸長は1, 2, 8, 10月が良好である。また、さし穂は枝の先端部を用いた場合が基部を用いた場合よりも発根数が多く、根量も多い傾向にある。なお、苗の生育は1, 2月さしが良好で、8, 9, 10月さしは着花するため生育が遅れた。

取り木時期 発根率は12, 1, 2月処理が高く、なかでも1月処理は発根本数も多く、根量も多い傾向にある。この場合IBA処理と無処理の間に有意な差は認められなかった。

以上のように、さし木、取り木ともに共通して、1, 2月に実施した場合に発根しやすく、根量も多い。また、この場合に苗の生育も良好であった。

第1表 ミスト利用によるさし木の発根状態

項目	さし木時期		発根の種類											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12月		
発根率 (%)	前年生枝	先端部 90.0	基部 66.7	先端部 43.3	基部 6.7	先端部 3.3	基部 6.7	先端部 43.3	基部 100	先端部 63.3	基部 36.7			
	本年生枝	先端部 86.7	基部 40.0	先端部 86.7	基部 76.7	先端部 80.0	基部 66.7	先端部 26.7	基部 0	先端部 16.7	基部 36.7	0	16.7	
根長 (cm)	前年生枝	先端部 228	基部 115	先端部 92	基部 82	先端部 56	基部 1	先端部 29	基部 179	先端部 62	基部 41			
	本年生枝	先端部 57	基部 70	先端部 44	基部 68	先端部 25	基部 0	先端部 3	基部 29	先端部 105	基部 73	先端部 156	基部 82	
												93	40	
													42	

第2表 取り木の発根状態

項目	取り木時期 処理	発根状態											
		49年8	9	10	11	12	50年1	2	3	4	5	6	7月
発根率 (%)	IBA処理	0	0	20	20	40	50	40	20	0	0	30	10
	無処理	0	0	10	0	50	60	50	0	0	0	10	10
根長 (cm)	IBA処理	—	—	250.5	81.5	226.4	313.6	126.6	117.0	—	—	258.2	40.0
	無処理	—	—	137.0	—	192.3	227.2	279.1	—	—	—	93.0	107.0